

3.2.2 学生の受け入れ

【評価項目 5-0-1】 入学者受け入れ方針等（門戸開放）

（必須要素）他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」の状況

【評価項目 5-0-2】 学生募集方法、入学者選抜方法

（必須要素）大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

【評価項目 5-0-3】 入学者選抜の仕組み（学内推薦制度）

（必須要素）成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

【評価項目 5-0-4】 入学者選抜方法の検証

（必須要素）各年の入試問題を検証する仕組みの導入状況

（選択要素）入学者選抜方法の適切性について、学外関係者などから意見聴取を行う仕組みの導入状況

【評価項目 5-0-6】 「飛び入学」

（必須要素）「飛び入学」制度の運用の適切性

【評価項目 5-0-8】 社会人学生の受け入れ

【評価項目 5-0-9】 科目等履修生、聴講生等

（選択要素）科目等履修生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

【評価項目 5-0-10】 外国人留学生の受け入れ

（選択要素）外国人留学生の受け入れ状況

（選択要素）留学生の本国地での大学教育、大学前教育の内容・質の認定の上に立った学生受け入れ・単位認定の適切性

【評価項目 5-0-11】 定員管理

（必須要素）収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性

＜2003年度に設定した目標＞

1. 厳正な選抜を行い社会学研究科にふさわしい優秀な学生の選抜を行う。
2. 研究者養成に加えて高度専門職業人の養成にむけての学生の受け入れを行う。
3. 新設する専門社会調査士コースへの学生の選抜を円滑に行う。
4. 社会福祉の現場で指導的な役割を果たしうる資質を有する学生を受け入れる。

（現状の説明）

社会学研究科博士課程前期課程、後期課程にはそれぞれ社会学専攻と社会福祉学専攻の2つの専攻を、前期課程の社会学専攻にはさらに専門社会調査士コースを設けて、正規学生（一般）、特別学生（社会人、外国人）の募集を行っている。正規学生（一般）は、第1次（9月実施）で社会学専攻12名、社会福祉学専攻6名、第2次（3月実施）で若干名を、また、特別学生は、社会学専攻、社会福祉学専攻で、それぞれ若干名の募集を行っている。博士課程後期課程は、社会学専攻、社会福祉学専攻に分かれ、正規学生（一般）がそれぞれ4名、特別学生（社会人、外国人）がそれぞれ若干名である。正規学生（一般）への編入試験は、第1次、第2次それぞれ若干名である。

	前期課程				後期課程			
	正規		特別	正規	特別	正規編入		
	第1次	第2次	第1次 第2次	第2次	第1次 第2次	第1次	第2次	
社会学専攻	6名	若干名	若干名	4名	若干名	若干名	若干名	
社会学専攻・専門社会調査士コース	6名	若干名	-	-	-	-	-	
社会福祉学専攻	6名	若干名	若干名	4名	若干名	若干名	若干名	

(注) 特別学生：特別学生（社会人）は第1次入試のみ実施
特別学生（外国人）は第1次及び第2次入試を実施

また、受け入れ状況（2005年度）は、次表（表）のとおりであるが、特に、社会人は前期課程で6名、後期課程で12名である。また、外国人留学生は、前期課程で3名、後期課程で1名である。

研究科	専攻	在籍学生数							
		前期課程				後期課程			
		一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計
社会学研究科	社会学専攻	20		3	23	16			16
	社会福祉学専攻	15	6		21	11	12	1	24
計		35	6	3	44	27	12	1	40

試験科目は、正規学生（一般）で英語、専門科目、口頭試問を、特別学生（社会人、外国人）では論述試験、口頭試問を実施している。

社会学専攻と社会福祉学専攻における試験は、2日間実施し、1日目は学科試験で、外国語として英語、専門科目として、社会学専攻は社会学（社会心理学を含む）、社会福祉学専攻は社会福祉学の試験を行う。2日目は口頭試問である。配点は、各100点の300点満点で行う。

社会学専攻専門社会調査士コースは、課題レポートを事前に提出させるとともに、プレゼンテーション面接を実施する。課題レポート試験は、出願時に与えられた課題に沿って、課題提出期限までにA4用紙4枚にまとめさせて、提出させる。問われる能力として、①社会調査に関するテーマ設定能力、②文献、統計、調査データ収集能力、③調査設計能力、④レジュメ作成能力、がある。また、プレゼンテーション面接試験は、15分程度で課題に関するプレゼンテーションを行わせるものである。

出願資格は、特別の制限を設定してはならず、①大学卒業者または卒業見込みの者、②学位授与機構から学士学位を授けられた者および授与される見込みの者、③外国において学校教育における16年の課程を修了した者および修了見込みの者、④外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得した者と本研究科において認めた者、⑤文部科学大臣の指定した者、⑥大学卒業者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者、⑦個別の入学資格審査により、大学卒業者と同等以上の学

力があると本研究科において認めた者で、入学時22歳に達する者、である。他学部を含む3年卒業者は出願資格を有する。但し、成績優秀者に対する学内推薦制度は特に本研究科にはない。

なお、収容定員に対する在籍学生数の比率は、2004年度1.65、2005年度1.62である。

また、聴講生の実績は、2004年度13名、2005年度春学期は8名である

(点検・評価の結果)

点検・評価の結果つぎのとおりで、概ね円滑に進んでいる。

1. 質的にも優秀な学生の応募が多いなかで、厳正に学生の選抜を行っている。試験問題の作成は、研究科委員会に、複数の委員により構成される担当委員会を設置し、厳正に作成するとともに、試験終了後に研究科委員会にその結果を分析のうえ報告し厳正に対処するようにしている。

また特別学生（社会人、外国人）の選抜は、論述試験と口頭試問により行い、勉学意欲の強い社会人及び外国人がその多彩な社会的経験を有効に生かして勉学を行っている。

2. 研究者志望の優秀な学生だけでなく、社会人も含めた高度専門職業人を目指す学生の受け入れを行っている。
3. 2003年度から実施している専門社会調査士の選抜および養成は、立ち上がりから順調に発展、定着している。
4. 社会福祉の実践で、リーダーとして活躍できる人材を順調に輩出している。

(改善の具体的方策)

概ね順調な研究科への学生の受け入れが展開されているが、今後は本研究科の全国へのPRをしていくことにより、さらに多くの優秀な学生の志望者を獲得したい。2005年度は、志望者の裾野を広げる取り組みとして、社会学専攻および福祉学専攻の志望者向けのパンフレットを作成しPRを実施しているが、さらに精力的に展開をする。